

小河城主 小河二郎政平とゆかりの人々

おがわじろうまさひら



小河城跡遠景

正治二年（一二〇〇）、下河辺政平は、小河郷地頭として、小河二郎政平と称し、小河城（現小川小学校とその周辺）を築城したとされています。

父政義は、源頼朝の近臣として仕えた御家人であり、寿永二年（一一八三）、頼朝が志田義広（頼朝の叔父）と争った「野木宮合戦」に参陣しました。この合戦の結果、政義は、勝利した頼朝から常陸国南郡（旧石岡市、小美玉市の大部分および旧千代田町の一部）の惣地頭職を恩賞として与えられ、庶子に地頭職を分割相続しつつも志筑城（かすみがうら市）を築城して南郡支配の拠点としました。子孫は益戸氏を名乗りましたが、南北朝時代には南朝方に属し、没落してしまします。

そもそも、下河辺氏は、下野小山氏の一門であり、そ

の祖は、平安時代中ごろに活躍した貴族、そして武士であつた藤原秀郷とされています。秀郷は、天慶三年（九四〇）に平将門の乱を平定したことや近江三上山の百足退治伝説などで有名です。

小河二郎政平の子孫にあたる長谷川政宣（小川の法永長者）と長谷川宣以（平蔵）を紹介します。

長谷川政宣は、政平から数えて、七代孫にあたります。なお、政平の子、長教は大和国長谷川に居住して、長谷川氏と名乗り、駿河国志田郡小川村に移り住んでいます。

文明八年（一四七六）、今川氏六代義忠が遠江塩買坂で戦死したのち、一族間で家督争いが起こりました。義忠の遺児龍王丸（後の氏親・義元の父）は、この時、わずか六歳であり、龍王丸擁立派である伊勢新九郎（のちの北条早雲）らは、龍王丸の身の危険

を案じて、一時、今川氏の家臣であつた長谷川政宣に預けています。

政平を一代とすると十八代にあたるのが、池波正太郎の時代小説『鬼平犯科帳』で知られる長谷川宣以（平蔵）です。

宣以は、延享二年（一七四五）四百石の旗本長谷川家に生まれました。三十歳で家督を継ぎ、火付盗賊改役に任ぜられたのは四十二歳の時でした。四十四歳の時には、犯罪人などの自立支援施設であつた人足寄場の設立に尽力して功績を挙げました。

室町時代初期に成立した『尊卑分脈』によると、小河氏は、政平―能忠―義広とみえますが、そこで途切れてしまい、その後の小河氏の詳細はよく分かっていません。しかし、近年の研究成果や新史料の発見（長谷川中川家記録写）などから、政平の家系は、長谷川氏として確実に存続しており、歴史にも深く関わっていることが分かります。

有料広告募集中心！



詳しくは、Web 又は
下記問い合わせ先へ
<http://city.omitama.lg.jp/28.html>
☎：0299-48-1111 内線 1212
(秘書広聴課 広報広聴係)

航空券・ホテルのご予約はこちら



茨城空港内にあります
旅行のお店です



セントラルツリスト茨城空港店

小美玉市与沢 1601-55

茨城空港 1 階

●営業時間 9:00 ~ 17:00

●年末年始休業

TEL：0299-54-0500